何か一つに一生懸命取り組む

アステラス東海株式会社
代表取締役社長
田頭 進 たがしら すすむ

藤沢薬品に入った田頭さんは、ひょっとしたら研究者として定年を迎えることになっていたかもしれません。まさかTOPにまで上りつめるということは想像もしていなかったでしょう。

入社後配属されたのは治験原薬の製造、工業化KH確立、工場への技術移管、原価低減検討などを主業務とする研究所でした。そこで開発されていたひとつにヒットの予感がありました。製品は「セフスパン」と名付けられ、藤沢薬品を代表する製品の一つとなりましたが、ここから田頭さんの研究者としての予想もしなかった人生が始まります。

新製品の製造承認を取得する開発マネジャーと共に、モノの供給を担う製品化マネジャーが置かれることになり、製剤よりも合成に明るい者の方が良いだろうということで、その役が回って来ました。作業着、安全靴をスーツに着替え、研究所から本社の医薬事業本部企画室へ。

「それまで言葉も交わしたことの無い、国内営業、海外営業、臨床部門、薬事、法務、経理等の部門とのつきあい。国内外販売予測、競合品の状況と差別化戦略、商品名の選定、海外導出先との交渉、販売予測に見合う工場規模と設備投資計画の検討、薬価交渉のストーリー立案、果ては小児用顆粒製剤の味と色の決定…この3年間は実に濃密で刺激的な期間でした」

特にセフスパンの厚生省（当時）への申請書（A4用紙で1m、2mもの高さになる書類が必要！）を作成する担当者とウマが合わず、話すのも嫌になったことも。

「ストレスがたまる日々でした。でも2年かけて打ち解けたときには、この人に育ててもらったと思いましたね」

様々な苦労はありましたが、直属の部長が後の社長、会長になった人でした。

「これ以上のお手本はないという人の薫陶を受けさせて頂き、会社を動かす経営の一端を垣間見ることが出来ました」

東京・大阪・富士で7年間の単身生活などを経て、2000年富山工場へ工場長として赴任。免疫抑制剤「プログラフ」やアトピー性皮膚炎の薬「プロトピック」、抗真菌剤「ミカファンギン」などの生産ために、2年間で同時に3工場を建設するという前代未聞の仕事をしています。

その後大阪の生産本部へ戻ると、生産工場の分社化、山之内製薬との合併という大改革が待っていました。その中で2005年4月「アステラス製薬」が誕生。生産部門は技術本部となって、約20の工場と研究所、治験薬製造会社、分析受託会社を抱える大組織でした。

翌年6月生産子会社の「アステラス東海（株）」の社長に就任。さらに次の年にはアステラス・グループの子会社3社が合併し、「新アステラス東海（株）」として再スタートしました。

めまぐるしい日々も少し落ち着き、趣味のゴルフや帆船の模型づくりに熱中できるようになった今日この頃です。

学生時代は、ワンダーフォーゲル部に所属し週末は山登り、平日は麻雀と、

「よく遊びました。しかし薬化学教室の小林先生の講義にひかれて修士に進んでからはがむしゃらに研究しました。徹夜で実験したことも何度もあります。後輩の皆さん、何か一つでも興味を持って一生懸命やれば一点突破できるものです。がんばってください」

略歴

1949年　広島県生まれ
1967年　徳島大学入学　薬学部製薬化学科
1973年　修士課程修了（薬学研究科　薬化学教室）
1973年　藤沢薬品工業（株）入社
2005年　山之内製薬と合併、日本発のグローバル製薬企業を目指す「アステラス製薬（株）」誕生
2006年　アステラス東海（株）社長に就任